

別記様式

		担当課	教育部 学校支援課		
会 議 の 名 称		令和 7 年度第 1 回鴻巣市立中学校の部活動地域移行研究懇話会			
開 催 日		令和 7 年 6 月 1 7 日（火）			
開 催 時 間		午後 3 時 0 0 分 開会 ・ 午後 4 時 4 0 分 閉会			
開 催 場 所		鴻巣市役所 3 階 3 0 3 会議室			
出席者(委員)氏名 (出席者数)		清水 昭典、高橋 洋明、海老名 寛、小泉 孝宏、高橋 鋭行、 諏訪 宜之、三瓶 美穂、松本 安永、宮野 和幸、加藤 大地、 中村 美穂子			
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)		小川 平祐、大島 進、森 歩美			
事務局職員職氏名		教育部副部長 松本 直樹 教育部教育総務課長 長島 正和 教育部生涯学習課長 清水 健紀 教育部スポーツ課長 竹井 豊 教育部学校支援課長 鈴木 聡 教育部学校支援課指導主事 大塚 圭 教育部学校支援課主査 大塚 教子 教育部学校支援課主任 小田部 大樹			
傍聴の可否 (傍聴者数)		可（傍聴者 0 名）			
会 議 の 内 容	(次第)				
	1 開会 2 教育部長あいさつ 3 報告事項 （1）令和 6 年度部活動地域移行実証事業に係る報告について （2）令和 7 年度部活動地域移行実証事業の取組について （3）今後のスケジュール等について 4 意見交換「実証事業の取組を踏まえた今後の展開について」 5 諸連絡 6 閉会				

(事務局説明内容)

- ・ 部活動地域移行を進める理由として、少子化問題と働き方改革という二つの理由がある。鴻巣市の現状をみても、部活動が減ってきている学校も所々に見られるようになっており、これが年々子どもの数が少なくなっていくにつれて、さらに進んでいくことが想定される。
- ・ 地域移行・地域展開を行うにあたって、今まで部活動は学校教育の一環として行われていたが、地域クラブになることによって、社会全体で社会教育の一環として子どもたちを育てていこうということになる。ただし課題は多く、例えば指導者の確保であったり、どこが運営をしていくのかということ、運営にかかる費用というところも課題として挙がっている。
- ・ 地域移行をよりスムーズに行っていくために、本市においても国や県が推奨している実証事業に手を挙げ取り組みを進め、令和6年度は実証事業として休日のバスケットボール部の活動運営を地域のスポーツクラブへ委託して実施した。
- ・ 令和7年度の取り組みとして今年度も実証事業に応募し、今年度はバスケットボール部に加え、サッカー部も休日の活動運営を地域のスポーツクラブに委託して実施していく予定。
- ・ 鴻巣市では当初、令和10年度を目安に地域移行・地域展開を目指していたが、国の方針が令和13年度までに休日の部活動を原則なしにする形で延長されたので、本市としても少し緩やかな地域移行を行っていく考えである。

(懇話会委員の主な意見)

- ・ バスケットボールとサッカーは地域移行を始めているということだが、他の競技についてはどういう状況なのか。
⇒ (事務局) バスケットとサッカーは先行して進められているが、他の競技については進んでいない現状。
- ・ 現在バスケの実証事業を請け負っているが、実証事業の助成金がなくなったあとも同じように謝礼を支払うと、受益者負担が大きくなってしまう。しかし、受益者負担が大きくなると敷居が高くなってしまうため、私としては子どもがクラブチームと地域クラブを選択できるようにしてあげたいと思っているため、安価な参加費を設定し、入ってくるお金の中でなんとかやりくりしていきたいと考えている。
- ・ 地域クラブが軌道に乗るまでが大変だと思うが、国や市の補助金はもう出ないのか。
⇒ (事務局) 担当レベルでは、国の資料を見ている限りだと実証事業はまだ続くのではないかと考えており、実証事業が続くうちは、そういった補助金を活用して地域クラブを増やしていきたいと考えている。ただし、実証事業に応募する自治体も増えてきているため、補助金の金額や期間が今までどおりになるかは分からない。
- ・ 今年度サッカーの実証事業を進めているなかで苦勞しているのが、先生たちは前向きに協力してくれているが地域移行のビジョンがまだはっきりしていない所。先生たちはサッカーの（技術的な）指導というよりは、子どもたちと（学校のサッカー部として）大会に出るという大きな目標があるため、地域クラブの練習日を調整するうえでも、学校毎に練習試合が入っていたり、大会前なので難しいと言われたりと苦勞している。また、地域移行の最中では、先生は自校の部活動をみながら、地域クラブにも協力しなければいけないという、逆に負担が増えてしまう状況もある。完全に地域移行してしまえば、こういった先生の負担が減ると思うが、現状はそういった部分にも悩んでいる。
- ・ バドミントンは団体戦もあるが、基本的には個人戦が主なので、地域で分かれて活動していくのは難しくないと思うが、特になにか進んでいるわけではない。ただ、先生たちにも部活動に対する気持ちの差があると思うので、先生との連携の部分で不安がある。
- ・ 連携という部分では地域クラブと教員側の足並みが揃わないという課題はどの競技

でも発生すると思う。教員も部活動をやりたいという人もいれば、指導ができずに困っている人もいる。ただ、その競技を専門で教えられる先生というのは恐らく少なく、地域移行されて助かる教員は多いと思う。

- ・部活動がなくなる年度を決めて、そこに向けて関わる人が協力してやろうとしない限り、なかなか難しいし、地域の団体もやるしかないかとならない。
- ・社会体育で学校体育施設の開放を行っているが、今後、平日も地域移行していくなかでは、地域移行の団体を優先して使用できるような形にしてもらいたい。
⇒（事務局）学校体育施設の開放の原則だと、部活動最優先、学校行事最優先で空いたところについては、地元の方に利用していただくような形で利用いただいている。ただし、学校開放の団体は昔から使ってる団体が数多くあり、今まで使えたものが使えなくなるとなると、様々ご意見をいただくかとは思いますが、やはり学校施設であるので、そちらを最優先すべきだとは考えている。
- ・剣道は地域で道場という形で活動しているが、道場ではスポーツ競技とは違ったアプローチをとっていて、例えば保護者同意の元、正座で反省をさせることもあるし、同じ剣道を教えていても各道場で違うスタンスがある。そのため、部活動として剣道をしていた中学生が部活動のスタンスのまま道場に来ると時としてトラブルにもなりかねないかもしれないと心配ではある。また、個人的には中学生をフラットに受け入れる団体も必要ではないかと考えているが、剣道は打撃を伴う競技なので、ただ単に技術を教えるだけでなく、武道として心の成長も図っていかなければならず、その点が非常にもどかしく思っている。
- ・バレーボールは、中学校にバレー部がない場合はクラブで中学校の大会に出ることができるが、学校に部活動がある生徒はクラブの方で大会には出られない。そのため、部活動が続いている状態だと、なかなか地域クラブで活動しようという考えも起きづらいのではないかな。
- ・男子バレー部は規模が大きいので、すぐに地域クラブで活動していくのは可能かもしれないが、女子バレー部はチーム数も多いので、難しいのではないかな。
- ・吹奏楽団としては、もともと子どもを指導するために集まった団体ではなく、自分が演奏をしたくて集まった団体なので、地域の子供たちを指導するとかそういう位置づけは全くない。ただ、個人的に部活動の指導をしている人はいて、そういった人に話を聞いてみると、もしやるとしたら市で1団体であれば、各楽器を指導できる人も集まるかもしれないという話は出た。
- ・吹奏楽部は楽器を持ち出せないで、休日に学校内で練習するとなると先生が立ち会わないといけな。公民館等で楽器を常駐させてもらえるならば、合同チームもつくれるかもしれないが、そういった施設面の問題がある。また、吹奏楽部は学校行事で演奏を行っており、学校行事とリンクしているため、学校行事と切り離さないと完全な地域移行はできないと思う。さらに、合同チームの中でパート分けを行うと、学校単位では合奏ができない状態にもなってしまう。ただ、少子化の影響はあり、学校によっては3年生が引退すると10人以下になってしまう学校もある。
- ・他市では学校の一部の階をすべて多目的室にして、その階だけ鍵の管理を分けて、吹奏楽部の活動をしている例もある。そういった施設面も改善しないと、吹奏楽部の問題は解決できない。
- ・やはり競技によって状況が全く違うし、同じ競技でも男女によって違いがあり、武道の中でも柔道と剣道で違う、ただ、そのなかでも地域移行をいつから始める等、共通点を持って進めていくことが大事である。
- ・熊谷市で20年ほど前から中学生のソフトテニスの指導をしていて、大きな大会も開催しているが、熊谷市が成功している理由は、夜間に使用できる設備が非常に多いこと。ただ、地域移行の話が出た途端に熊谷のクラブに入りたいという中学生が増え、対応しきれない状態になっている。鴻巣市でも部員が一番多い部活はソフトテニスだと認識しているので、そういった施設面の整備も必要。
- ・スポーツ関係の部活動の情報は入ってくるが、文化部関係の状況が分からない

	め、次の懇話会で教えて欲しい。 ▪ 今はスポーツ少年団は12歳（小学校）までしか活動していないイメージだがスポーツ少年団が15歳まで範囲を広げて活動できないのか。 ▪ スポーツ少年団に入っていない団体もある。私の団体もスポーツ少年団に入っていないので、地域移行を進めるうえでは、そういったスポーツ少年団以外の団体も、同じ地域移行のクラブの括りにしてもらえたらと思う。 ▪ 最終的に地域移行を行おうとするなら、民間クラブや道場に行ける子が行ってもらって、地域移行のクラブはそこに金銭面であったり、距離の問題で行けない子たちのための受け皿を作るというスタンスでないと無理ではないか。そのスタンスを整理しないと、他の団体も参加しづらいと思う。
配布資料	▪ 次第 ▪ 部活動地域移行研究懇話会名簿 ▪ 地域移行研究懇話会資料

注 会議の内容の欄は、主な意見や質疑内容を交えて概要を記入し、記入事項が多い場合は、別紙に記入するものとする。